青森県立つくしが丘病院

認知症疾患医療センター通信

令和５年１０月１７日発行　第１５号

9月21日　世界アルツハイマーデー

国際アルツハイマー病協会がWHO（世界保健機関）と共同で1994年から啓蒙活動に取り組んでおり、毎年9月を「世界アルツハイマー月間」と、9月21日を「世界アルツハイマーデー」と定めています。

日本でもポスターやリーフレットを作成し、認知症についての理解を呼びかけるなどの活動が各地で展開されています。

認知症の普及啓発のシンボルカラーはオレンジです。認知症に関するイベントや団体、関連グッズにオレンジが多く採用されていたり、各地の名所をオレンジにライトアップするイベントがあるようです。

2025（令和7）年には団塊の世代が75歳以上となるため、認知症の人は約700万人（65歳以上の高齢者の約5人に1人）に達すると見込まれています。2015年1月に策定された認知症の国家戦略「新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）」は、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目的としています。

認知症サポーターキャラバン
ロバくん

新オレンジプランの7つの柱

①認知症の理解を深めるための普及・啓発の推進
②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
③若年性認知症施策の強化
④認知症の人の介護者への支援
⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発およびその成果の普及の推進
⑦認知症の人やご家族の視点の重視

この新オレンジプランは、地域包括ケアシステムの実現を目指す中で、認知症について社会を挙げた取り組みモデルを示していくものです。「認知症高齢者等にやさしい地域の実現には、行政、民間、地域住民などさまざまな主体がそれぞれの役割を果たしていくことが求められる」とされています。そして「コミュニティーのつながりこそがその基盤であり、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを通じて地域を再生するという視点も重要」とされています。

認知症サポーターキャラバン

認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを全国で多数養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指す取り組みです。

RUN伴～らんとも～

全国で展開されている認知症の啓発イベント
（令和元年8月の様子）

青森市認知症フォーラムに参加しました

令和5年9月16日アウガ5階にて、青森市認知症フォーラムが開催されました。“認知症になっても安心してくらせるまちへ”とのサブタイトル通り、会場にはたくさんのパネル展示や脳の健康チェックコーナー、ロコトレ＆脳トレ（介護予防体操や脳トレーニング）体験コーナー、動画上映コーナーがあり、健康や暮らしに役立つ情報が会場いっぱいに用意されていました。市役所や市内の地域包括支援センター職員、大学生などさまざまな立場の人たちと、会場に足を運んでくださった市民の皆さんとの交流を通して、認知症や健康への関心の高さを感じました。
また、脳神経外科・内科 藤本クリニック院長藤本俊一先生の講演や、「忘れやすくなった私から伝えたいこと」と認知症ピアサポーターの本人メッセージでは、認知症の人が住みやすい環境を作ることの大切さを学びました。
そして、チームオレンジ（認知症サポーター）の取り組みとして「オレンジ幸畑団地」の皆さんの活動紹介がありました。市民主体の活動が始まっています。

感染防止対策

***病院に来られる方（患者、患者の家族、業者等）**
来院中はマスク着用と手指消毒を行ってください。
発熱等かぜ症状がある場合や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の検査が陽性となった場合は来院を控えてください。

***面会を希望される方**
面会は15分、2名程度とします。
患者・面会者ともに面会中はマスクを着用してください。
面会中の飲食は控えてください。
家族・保護者・治療に関係する者以外の面会は控えてください。

電話：017-788-2988（センター直通）

発行者：青森県立つくしが丘病院認知症疾患医療センター運営チーム
〒038-0031青森市大字三内字沢部353-92